玉城中学校　平成 27 年度　全国学力･学習状況調査結果概要

今年４月２２日に行われた全国学力・学習状況調査の結果をまとめました。ここでは、全国や三重県のデータと玉城中のデータを見比べて玉城中学校の生徒の状況について分析しました。この分析は国語、数学、理科で問われる学力のどこが強みで、どこが弱みか、また、学習状況調査から見えてくるよりよい学習習慣について確認してみました。

１　教科に関する調査結果

(1) 実施した教科

① 国語Ａ（主として「知識(基礎・基本)」の習得状況）② 国語Ｂ（主としてその知識を「活用する力」の定着状況）
③ 数学Ａ（主として「知識(基礎・基本)」の習得状況）④ 数学Ｂ（主としてその知識を「活用する力」の定着状況）
⑤ 理科

(2) 本校の結果の概略

本校の平均正答率は、国語Ａ・B、数学Ａ・B、理科とも全国平均を上回りました。

国語Ａ（知識）でカテゴリー別に見た比較についてはどの項目においても三重県、全国と比較して高水準でした。特に「学習指導要領の領域別 A 書くこと」と「評価の視点 4 読む能力」で全国や三重県平均との差が顕著でした。さらに「評価の観点　３書く能力」については三重県平均との差がありました。

【国語Ａ　強み】
○文章内容の理解ができている。
○文章の要旨をきちんと捉えることができる。
○文にある考えをまとめることができる。
○質問の意図を捉えることができる。
○無解答率が低い。

【国語Ａ　弱み】
●適切な語句の使い方がうまくできていない。

全体的に無解答率が非常に低く、それが好成績の一因になったと考えられます。県や全国平均と比べると、上位の有意差がある設問が多くありました。しかし、設問９の適切な語句の選択で誤答率の高さが目立っていました。

国語Ｂでは、昨年度に比べて問題の難易度が下がり、玉城中、三重県、全国とも、正答率が昨年度データよりかなり高い傾向になっていました。玉城中は、２年時に行った時には、県や全国平均よりもかなり正答率が低く、全く点が取れませんでしたが、３年生になって逆転し、すべてのカテゴリーで平均を上回りました。しかし、「書くこと」「関心・意欲・態度」や「書く能力」、「記述式」のカテゴリーでの正答率が低く、引き続き「書くこと」や「説明すること」に関する学力が付いていないことが浮き彫りになりました。

【国語Ｂ　強み】
○物事の理由を書く設問はできていた。
○文章の要旨を捉える設問はできていた。
○適切な翻訳の効果の選択ができていた。
○すべての設問で無回答率が低い。

【国語Ｂ　弱み】
●「根拠を明確にして自分の考えを書く」設問ができていない

小泉八雲の狢（むじな）の文章を推敲して自らの意見を書くという設問については、自分の考えは述べられるものの理由をうまく盛り込めない解答が多く、正答率が低くなっていました。

国語では、読み取る力はついてきていますが、書くことを苦手にする生徒が多いようです。特に、今後は資料に基づき、理由や根拠を述べながら自分の考えを書く力を付ける必要があります。

数学Ａ（知識）では、カテゴリー別に見て、県、全国平均よりほとんどの項目で数値は上回っているものの大きな差はなく、どのカテゴリーにおいても、全国や県と同水準でした。

【数学Ａ　強み】
○文字式の立式の正答率が高い。
○グラフの読み取りの正答率が高い。
○場合の数を求める設問の正答率が高い。
○作図の原理理解ができている。

【数学Ａ　弱み】
●連立方程式の正答率が低い。
●空間図形のイメージが掴みにくい傾向がある。
●数学で使う言葉の意味（中央値 等）が理解できていない。
●三角形の合同条件がうまく使えていない。

正答率が高い理由として考えられることは、立式が難しいとき、具体的な数字を例として考える習慣が身についていること、作図では、作図方法だけでなく、その根拠を常に考えさせていること、場合の数は、樹形図や表などを使って場合の数を数える活動を多く行ったことがその要因と考えられる。逆に弱みの根拠としては、①基礎・基本が理解できていない生徒がいること、 言葉の意味の捉えが曖昧なことが多いこと、空間認識が弱いことが挙げられる。今後は、できる限り生活課題に則するように教材内容の工夫したり、引き続き ICT 機器を有効活用したり、言葉の意味理解を正しく指導したりしていきます。

数学Ｂ（活用）で全国、三重県と比較して上位の差があると思われるカテゴリーは「A 数と式」「P 記述式」である。玉城中学校では、かなり学力が付いてきている生徒がいる事がうかがえました。

【数学Ｂ　強み】
○条件にあった式の立式ができている。
○グラフを元に説明する事ができている。
○図形を用いた説明ができている。
○無解答率が低い。

【数学Ｂ　弱み】
●中心角と半径の関係が捉えられていない。

図形の性質を用いた説明では、説明に必要な図形の性質や情景を学習活動の成果が出ました。グラフを基にした説明では、資料の傾向を捉えて説明する場面をグループ活動の中で行ったことによる結果だと思われます。

中心角と半径の設問では逆に比例と一次関数の捉えの理解ができていないことが課題としてわかりました。

理科については、全国、三重県よりかなり上回る成績を上げることができました。「実験観察の技能」「選択式」以外のカテゴリーで上位の差がありました。

【理科　強み】
・化学反応の結果の理解ができている。　・気圧実験の推論ができている。・オームの法則が理解できている。
・自然現象から課題発見ができる。　・磁界の説明ができる。　・他者の考察に対する適切な記述ができる。
・無解答率が低い。　等

理科については下位の有意差が見られる設問項目はなかった。しかし、知識を問う項目については有意差が無いことや計算や自分の考えをまとめることには苦手意識を持った生徒も多い。今後はそこを重点的に定着させていくことが必要だと考えている。事象をうまく捉えたり、実験の意味やその結果理解がきちんとできていたりすることがら、学習に対して意欲的になってきていることがわかった。

２　生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果

(1) 質問紙の主な内容

① 普段の生活習慣に関する質問　② 普段の学習習慣や学習環境についての質問
③ 学校生活・授業に関しての質問

(2) 本校の結果から見た強み、弱み

ここでは、調査結果から(1)の①、②、③を中心に本校の強み、弱みを考察します。

＜強み＞　○毎日、同時刻に寝起きできている生徒が多い。　○友達の意見を最後まで聞ける生徒が多い。
○読書時間が増えてきている　○地域行事や地域や社会で起こっていることに関心のある生徒が多い。
○学習活動の「ふりかえり」を行っていた。　○ノートに「めあて」と「まとめ」を書いていた。

＜弱み＞　●家で宿題をしている生徒の割合が低い。　●TV やビデオ、DVD の視聴時間が長い
●土日とも、一日あたりの学習時間の少ない生徒が多い。●総合の時間で発表活動等に取り組んでいる。
●自分の考えを説明したり文章に書いたりすることは難しい。

(1)　強みについて

毎日のリズムをきちんと守れているようです。友達との人間関係や地域社会とのつながりを大切にして行動している傾向が強く見られます。実は、このことは学力調査の結果ともつながっていて、このように社会的なつながり、友達とのつながり、家族とのつながりを大切にしている生徒ほど学力調査の結果でも正答率が高い傾向が見られています。また、読書時間を確保することも重要でこれが強みであることは、文章読解力をつけるのはもちろんのこと、自分を見つめ直したり、気持ちをリフレッシュしたりすることで、人としての成長が期待できます。授業の際の「めあて」「ふりかえり」についてはきちんと意識している事がうかがえます。

(2)　弱みについて

これまでの調査でずっと同様の傾向が見られていますが、全体的に時間をうまく使えない生徒が多いようです。１日あたりのテレビやビデオの視聴時間、テレビゲームのプレイ時間が長すぎるなど、どちらかというと楽な方へ流れてしまっている傾向が少なからずあります。勉強、読書、遊びなど１日 24 時間を、メリハリをつけて過ごすことが大切です。また、計画的に勉強に取り組んだり、予習、復習をするなど自ら机に向かったりという習慣をつけたいものです。また、学校での総合的な学習の時間での活動内容について再考の余地があります。

このほか、「『自分にはよいところがある』と答えている生徒ほど学力調査の正答率が高い」こと、「ある程度の社交性が、学力との因果関係を持つこと」など、この調査結果から分かってきています。

＜今後の方向性＞

この調査は、４月に行われたもので、今の状況は少し違ってきているとは思いますが、学校では、この結果を踏まえて今後の指導の糧にしてきたいと考えています。学習面では、基礎・基本は一応できているものの、全国や三重県の傾向と同様に、それを活用することや、自分の考えを説明したり、記述したりすることに課題があることがわかりました。今後は、そういった「考える場面」「説明する場面」をこれまで以上に多く設定するなどして普段の授業に反映していきたいと思います。

時間の使い方につきましても、受験という大きな局面を迎えることになりますので、「有効な時間の使い方」について考えることを促したいと思います。